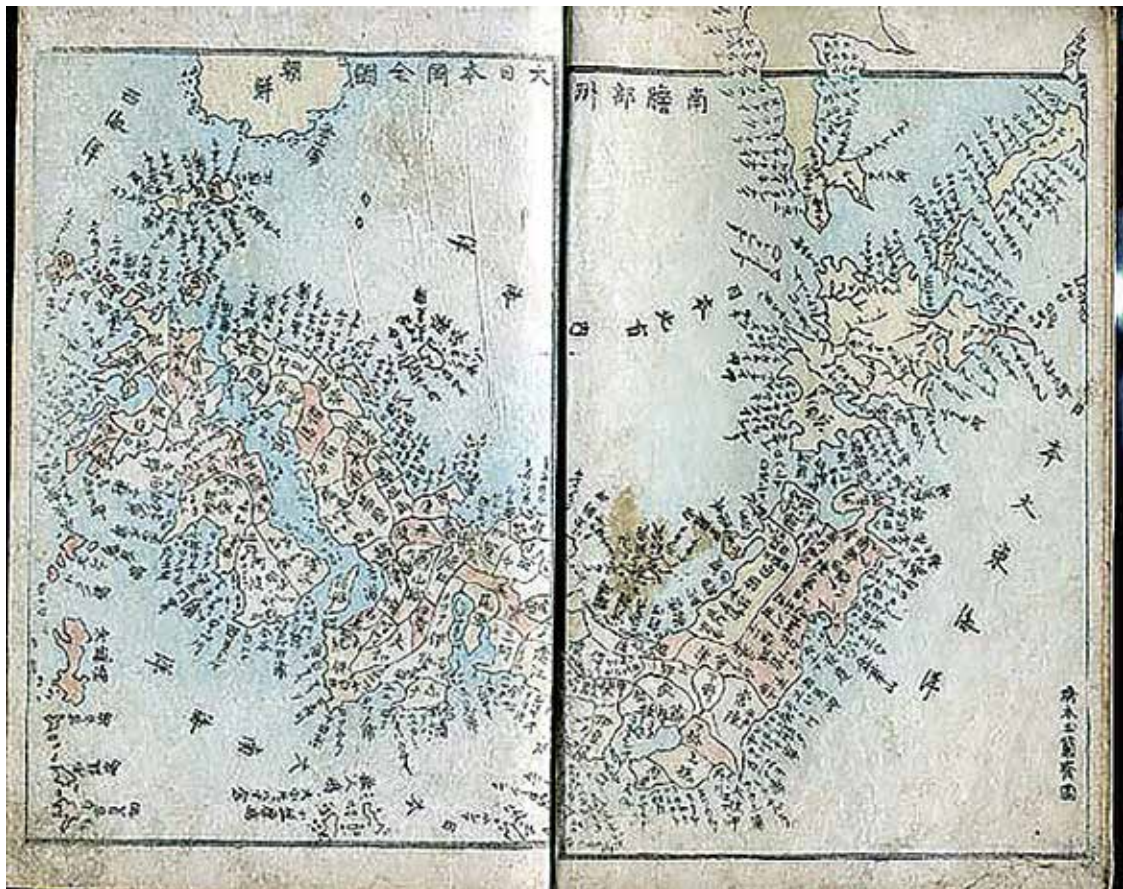


「沖縄人」は「日本人」である。

何をいまさら、言っているのか？ といぶかしく思っている読者の方も多いのかもしれない。実はコレ、「明星大学戦後教育史研究センター」の勝岡寛次先生の研究成果なのである。

まず、テレビなど音声が十分に普及してきた現在。どこの地方に行っても標準語が通じる。「沖縄」も「九州」も「東北の青森県」も若い人たちは標準語を理解し、標準語で話している。

戦国時代から、幕府などの間諜（スパイ）に分からぬ様に各藩は「特別な言い回し」「独特な言葉」を使い藩の安全を守った。幕府による《おとり潰し》が怖かったからだが、落語などでは「お国訛りはお国



の手形」などといわれる。

しかし、どんな方言でも、音便、文法、語彙は同じ、という。

つまり、日本語は紀元2世紀～7世紀の間に「本土方言」と「琉球方言」とに分かれた。

当然、同じ日本語の「本土方言」と「琉球方言」なのだから音便、文法、語彙は同じだ。

九州の本土人から 農耕を教わる

農耕・稲作が沖縄に伝わったのは九州からである。

12世紀ころ、平安・鎌倉時代になっても狩猟・採取を続けていた琉球地方の人々に農耕・稲作を伝える。

本土は農耕は弥生時代からだから、沖縄の人たちは随分と永い間、狩猟と採取を続けていたことになる。

琉球建国の始祖 舜天王は、 源為朝の子 尊敦(そんとん)の ことである。

沖縄の北のほうに「源為朝上陸記念の碑跡」(東郷平八郎揮毫)がある。

琉球建国の始祖舜天王とは、源為朝の子、尊敦(そんとん)のことである。そしてそのことが僧袋中の「琉球神道記」、

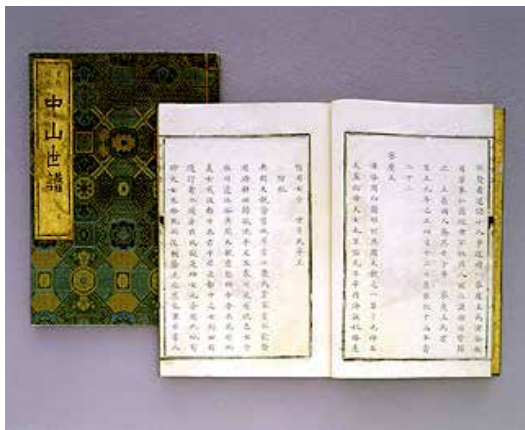


羽地朝秀の「中出世系図序」、新井白石の「南島志東鑑書」に書かれている、と記載した。

では羽地朝秀(向象賢)編纂の『中出世鑑』の記述を見よう。

「舜天王尊敦と申奉るは、大日本天皇第五十六代清和天皇の孫、六孫王より七世の後胤六條判官源為義の八男、鎮西八郎為朝公の男子也」とある。

由来、伊豆に流されてから五島を平討して琉球にいたるまでの経緯について『五



島を経て潮流にまかせて琉球にたどり着いた』となっている。

当時このように日琉同祖論を説くことによって、薩摩の政治的、経済的政策から、異民族視的支配の観念を除き、その圧力

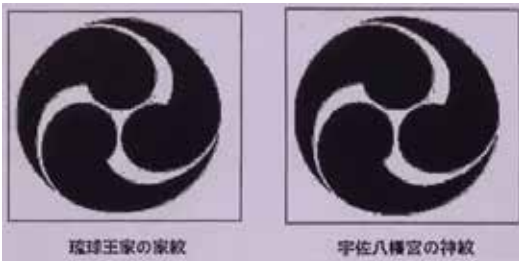
を出来るだけ緩和しようと計った。そして薩摩との間に無用の溝を取り除こうとする深慮がはたらいていた。と、**沖縄一千年史**は書いている。

この開題について琉球五山の僧**玄蘇長老**の**八高記**、**南浦文集**にも記述が見られる。明治以降の学説では、**幣原博士**の**南島沿革史論**、**平出鑑二郎**の**史学論文**、また**重野**、**久米**、**星野三博士**の**国史眼**等も、**源為朝**の琉球渡来説を支持、肯定する論説を出すなど、多々ある。

では地勢上は可能かと言う問題について、海洋学の**和田博士**の論文を見てみよ



う。「為朝の航路と小笠原環流」為朝琉球渡來說に関し、世人の最も疑を容るる地勢上の関係に付き一言せんに、伊豆大島より小笠原環流に作用せられて沖縄方面に流れ来る高速度の潮流あることは、夙に海洋学では証明せられたり。而して大正四年八丈島の南方青ヶ島附近の海底火山爆発の為に、軽石の沖縄県国頭郡本部に漂着せしは、僅々二十四時間に過ぎさりしと云う。……(東郷平八郎)。



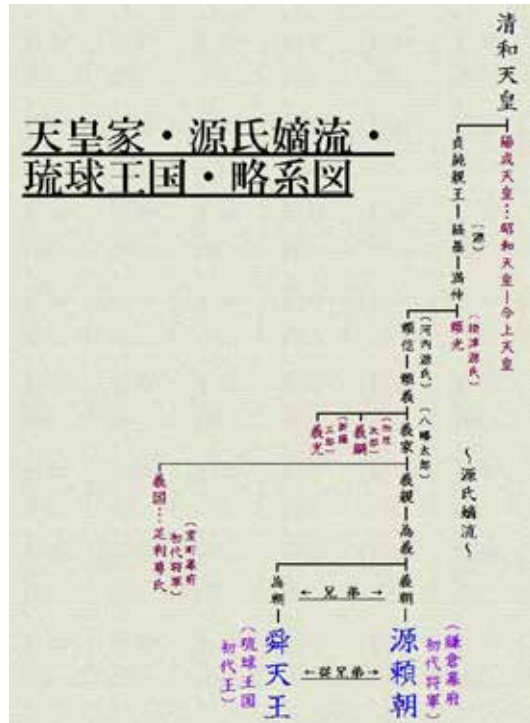
「琉球王家の家紋」と『武の神様』である「大分県の《宇佐八幡宮の神紋》とは全く同じ」デザインです。

ですから、琉球・沖縄人は完全に日本・日本人で【琉球独立論】は全く的外れの大間違いです。

■現沖縄県知事の翁長雄志氏は何を勘違いして「中国の属国のシルシ」である『龍柱』を公金で建てようとするのでしょうか？

日本国政府は翁長雄志県知事の「公金無駄遣い」行為を見過ごさず、きちんと処分をすべきです。

■琉球の人たちは本当の意味で原日本人



なのかもしれません。大和朝廷の政策に素直に従わず、琉球に追いやられたのかもしれないからです。

■最近の遺伝子研究では、琉球人は中国や台湾に住む人たちの集団とは遺伝子的にかなり離れていることが明確になってきました。

◆父系遺伝子のY染色体ハプログループD1B (YAP型) 系統という非常に珍しい染色体をもつ

本土の日本人が40～50%、
アイヌ民族が90%、
沖縄本島では70%なのです。

しかもこの遺伝子は日本人以外では、世界でも珍しく、台湾・韓国・中国には全く見られないもの、と言われます。